

OTCの「相互作用」と「注意事項」の解析調査と一覧ポスターの作成

新潟薬科大学 薬学部 高中 紘一郎

(〒956-8603 新潟市秋葉区東島 265-1 TEL:0250-25-5239)

要旨

セルフメディケーションが推進される中で、患者に対し、適切な OTC を選択して提供することや、適切な情報提供を行うことが薬剤師に求められている。本研究では OTC 医薬品の主要な注意事項として「相互作用」及び添付文書中の「してはいけないこと」を解析して整理し、薬効分類及び成分ごとに一覧表を作成することで、薬局・薬店における適切な OTC の選択に寄与することを目的とした。

これまでに貴財団からの助成を頂いて運営してきたウェブサイト「薬の資料室 (<http://www.pharm-e.org>)」において、OTC 医薬品の相互作用について検索、閲覧が行える「薬の飲み合わせ検索システム」を提供してきた。この検索システムにおいて問い合わせの多い又は相互作用の検出が多い OTC 医薬品における相互作用は、相互作用を起こす危険性の頻度が高いという点において特に注意すべき相互作用とみなすことができると考え、集積された検索アクセスログ（検索問い合わせの記録）のデータを解析し、抽出を行った。また、所有しているデータベースから OTC 医薬品の添付文書中の「してはいけないこと」の解析を行い、上記の相互作用と合わせて主要な注意事項として整理し、OTC の薬効分類及び成分ごとにこれらの注意事項が一覧できる一覧表ポスターを作成した。

作成した一覧表ポスターは、ウェブサイト「薬の資料室」上で PDF ファイルとして公開し、誰でもダウンロードして印刷し、活用できるようにした。薬局や薬店で薬剤師が臨床判断を行い、OTC 医薬品の選択等のアドバイスを行う際のリスクの軽減などに寄与できるものとする。

1、調査研究目的

セルフメディケーションが推進される中で、患者に対し、適切な OTC を選択して提供することや、適切な情報提供を行うことが薬剤師に求められている。本研究では薬局・薬店における適切な OTC の選択に寄与することを目的とし、OTC 分類及び成分ごとの主要な注意事項の一覧表を作成することを試みた。

これまでに貴財団からの助成を頂いて運営してきたウェブサイト「薬の資料室 (<http://www.pharm-e.org>)」において、OTC 医薬品の相互作用について検索、閲覧が行える「薬の飲み合わせ検索システム」を提供してきた。この検索システムにおいて問い合わせの多い又は相互作用の検出が多い OTC 医薬品における相互作用は、相互作用を起こす危険性の頻度が高いという点において特に注意すべき相互作用とみなすことができると考え、集積された検索アクセスログ（検索問い合わせの記録）のデータを解析し、主要なものを抽出した。また、所有しているデータベースから OTC 医薬品の添付文書中の「してはいけないこと」の解析を行い、上記の相互作用と合わせて主要な注意事項として整理し、OTC の薬効分類及び成分ごとにこれらの注意事項が一覧できる一覧表ポスターを作成した。

2、調査研究方法

「薬の資料室」内の薬の飲み合わせ検索システムにおいて集積された検索アクセスログ（検索問い合わせの記録）データの中から 2011 年 1 月 1 日 00 時 00 分 00 秒から 2011 年 12 月 31 日 23 時

59分59秒までの1年間のログデータを検証し、医療用医薬品とOTC医薬品の相互作用それぞれについて薬効分類毎に検索されている数、それらの中で相互作用が発生していた組み合わせの検索数について調査した。これらの結果を基にして、主要な相互作用をOTC成分ごとに列挙し、一覧表を作成する際の参考資料とした。

一方、OTCの「してはいけないこと」の解析は、所有しているOTC医薬品のデータベースを用いて行なった。このデータベースには10,683件のOTC医薬品のデータがあり、このうち添付文書中に「してはいけないこと」が記載されている医薬品718件を抽出した。718件のデータについて、添付文書中の「してはいけないこと」及び「相談すること」の部分の単語ごとに区切り、注意することの単語データを作成した。単語は3,584件あり、重複項目を統合するなどの整理を行った後に、内容を分類して分類ごとに並べ替えた。OTC医薬品の薬効分類は医薬品医療機器総合機構で用いられている分類を利用し、医薬品の分類ごとに成分一覧を作成して、注意することのリストを薬効分類、成分ごとに作成した。

2011年度に消費者に向けた注意書である「セルフトーカーカード」の作成を行い、薬局からのフィードバックを戴いた中で、「薬剤師にとって有益」との回答が多く寄せられたことから、更に薬局の現場で活用していただくことを目的として解析結果をまとめてOTCの「相互作用」と「注意事項」のポスターによる一覧表の作成を行った。これらの結果の一覧表を運営しているウェブサイト印刷可能なデータでダウンロード可能となるよう掲載した。

3、調査研究成果

3.1 OTC成分ごとの相互作用の一覧表

3.1.1 OTC成分の分類ごとの被検索数

ログデータより、相互作用（結果）の有無に関わらず検索入力されたOTC成分を薬効分類毎にまとめ、薬効分類ごとの被検索数を算出した。最も検索数が多かった薬効分類は「その他のアレルギー用薬」の1864件、次点で「解熱鎮痛消炎剤」1641件、「催眠鎮静剤、抗不安剤」1580件となった。

3.1.2 医療用医薬品とOTC医薬品間での相互作用を持つ検索数

検索入力された処方のうち、医療用医薬品とOTC医薬品の間での相互作用が発現する組み合わせが含まれていた処方を抽出し、薬効分類毎に被検索数を算出した。

医療用医薬品とOTC間での相互作用結果が出力されたもので、最も多く検索されていた薬効分類（医療用医薬品の薬効分類）は「解熱鎮痛消炎剤」の538件、次点で「催眠鎮静、抗不安剤」の464件、「精神神経用剤」の203件であった。

3.1.3 注意すべきOTC医薬品の相互作用

解析した調査結果を基に、OTC成分ごとに主要な相互作用医薬品（成分）を列挙し、一覧表の相互作用欄に記載した。相互作用内容は、併用禁忌／併用注意に分けて記載し、禁忌の欄には、相互作用を起こす成分と共に相互作用の臨床症状／措置方法、機序／因子についても記載した。併用注意欄には、注意すべき主要な医薬品成分名を列挙した。

3.2 OTC成分ごとの注意すべきことの一覧表

OTC成分の分類ごとに全般的に注意すべきことは「気をつけること」としてまとめて記載した。また、「気をつけること」欄には、これまでに作成していたセルフトーカー日本語版をもとに、「チェックする項目」を併せて記載した。ほぼすべての添付文書に記載されている基本的な注意（例：「本剤によるアレルギーを起こしたことがある人」など）は、表中には記載せず、欄外に別記した。それ以外の個々のOTC成分に関する記述は、「してはいけないこと／服用してはいけない人」の欄に成分ごとに分けて記載した。

これらの「相互作用」及び「注意すべきこと」の結果を合わせて一覧表とし、成果物「OTC 医薬品の『注意事項』一覧表」とした。この一覧表を印刷したものを添付書類としている。また、この一覧表は運営しているサイトに PDF ファイルとして掲載し、ダウンロードを可能とすると共に印刷して活用できるようにした。

4、考察

医療用医薬品と相互作用を持つ OTC 医薬品（分類）として最も検索数の多かった組み合わせである解熱鎮痛消炎剤と内服かぜ薬の相互作用の機序は NSAIDs 同士の併用による効果の増強であり、副作用である潰瘍の発生の危険性が増すことも考えられる。次に多かった催眠鎮静剤、抗不安剤、及び精神神経用剤との相互作用では、内服かぜ薬に抗アレルギー成分として含まれるフマル酸クレマスチン、マレイン酸クロルフェニラミン等の成分が相互作用を起こす原因薬物として挙げられる。相互作用の機序は中枢神経抑制作用が増強されることが挙げられており、催眠鎮静薬、抗不安剤、精神神経用剤共に作用が増強する危険性がある。合成抗菌剤との相互作用を持つ OTC 医薬品の分類には解熱鎮痛薬がある。相互作用の要因となっている NSAIDs は内服かぜ薬にも含まれていることが多いため注意が必要である。これらの相互作用検索システムにおける検索数から見た主要な相互作用項目は成果物の一覧表（特に併用注意の欄）を作成する際の参考資料とした。次に、OTC の「してはいけないこと」は添付文書上の注意事項の解析を基にポスター作成を行い、一覧表の備考欄に注意点などをまとめたが、さらに「副作用として考えられること」と「使用すべきではない人」の注意を分かりやすく・見やすくするような工夫も必要であると考えられる。一覧表とすることで、OTC の分類ごとに即座に注意すべきことや成分ごとの違い等が読み取れるようになり、OTC 購入する患者に対し、より安全で適切な OTC の選択肢を提案することも可能になると考えられる。

この一覧表は、PDF ファイルとしてダウンロードできるようウェブサイトに掲載しているので、多くの薬局・薬店で印刷してポスターとして活用できると考えられる。今後、薬局やドラッグストアで薬剤師が臨床判断を行い、OTC 医薬品の選択等のアドバイスをを行う際のリスクの軽減などに役立てて頂ければと考える。

5、まとめ

セルフメディケーションの進展に伴い、薬局や薬店で薬剤師が臨床判断を行い、OTC 医薬品の選択等のアドバイスをを行う際に活用する目的で注意事項の一覧表のポスターを作成した。ウェブサイト「薬の資料室」上で PDF ファイルとして公開し、誰でもがダウンロードして印刷し、活用できるようにした。リスクの軽減などに寄与できるものと考えるが、これは研究的に試作したものであり、このような掲示物を協会や財団や学会等で作成して年度毎に配布が出来るように成る事を要望いたします。

6、調査研究発表

薬の資料室 (<http://www.pharm-e.org>) にて公開してダウンロード可能としてある。

7、引用文献

8、添付資料

OTC の「相互作用」と「注意事項」の一覧ポスター PDF ファイル

医薬品のOTC「注意事項」の一覧表

注:すべての添付文書に記載されている項目

- 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人
- 医師又は歯科医師の治療を受けている人
- 妊婦又は妊娠していると思われる人
- 授乳中の人
- 本人又は家族がアレルギー体質の人

5割以上に記載されている項目

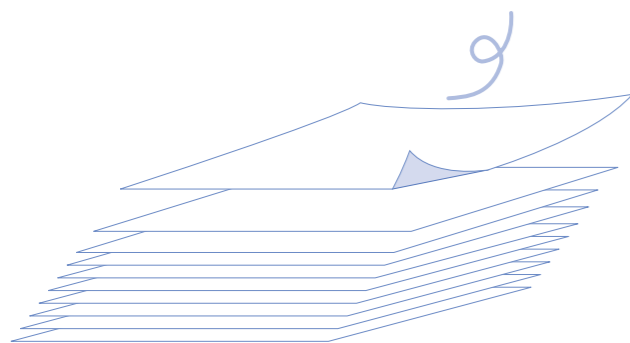
- 服用時は飲酒しないでください
- 長期連用
- 心臓病、肝臓病、緑内障、腎臓病の診断を受けた人

分類	気をつけること	症状	成分	してはいけないこと/服用してはいけない人	相互作用		備考		
					併用禁忌	併用注意			
かぜ薬 (内服)	・本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人 ・出産予定日12週以内の妊婦、授乳中の人 ・解熱鎮痛薬/鎮静薬/鎮咳去痰薬/抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用 ・高熱、排尿困難の症状がある人 【チェックすること】 ・高血圧、腎疾患、心疾患、糖尿病、緑内障、肝疾患、胃の疾患、甲状腺疾患はありませんか？ ・高熱は続いていませんか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・小児がお使いになりますか？ ・痰ににおいがあたり血が混ざっていませんか？ ・運転または機械類の操作はしますか？ ・お酒は飲みますか？ ・長期間使っていませんか？	頭痛・発熱	アスピリン	15歳未満の小児			NSAIDs、糖尿病用薬、抗凝血薬・抗血小板薬、β遮断薬、ACE阻害薬、利尿薬、尿酸排泄促進薬、ニトログリセリン、バルプロ酸Na、リチウム製剤、SSRI、塩酸ドネペジル、副腎皮質ホルモン剤、抗アレルギー薬、メトレキサート、タクロリムス、シクロスポリン、乳酸ナトリウム、アルコール	血液凝固作用、外科手術前は注意。アスピリン喘息、インフルエンザ、水痘の小児患者には禁忌	
			イブプロフェン	15歳未満の小児/全身性エリトマトーデス、混合性結合組織病と診断されている/胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病にかかった事がある人	ジドブジン (臨・措)血友病患者において出血傾向が増強したとの報告がある。(機・因)機序は不明である。		クマリン系抗凝血薬、アスピリン製剤、チアジド系利尿薬、ループ利尿薬、リチウム製剤、メトレキサート、タクロリムス、シクロスポリン、ニューキノロン系抗菌薬、コレステラミン	妊娠末期の人は使用を避ける	
			インプロビルアンチピリン	高齢者、胃・十二指腸潰瘍にかかったことのある人					ピリン疹
			アセトアミノフェン	高齢者、胃・十二指腸潰瘍にかかったことのある人				クマリン系抗凝血薬、チアジド系利尿薬、リチウム製剤、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、プリミドン、リファンピシン、イソニアジド、抗生物質・抗菌薬、アルコール	大量服用による肝機能障害
			サリチルアミド	高齢者、胃・十二指腸潰瘍にかかったことのある人/水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼小児(15歳未満)				糖尿病用薬、クマリン系抗凝血薬	
			エテンザミド	高齢者、胃・十二指腸潰瘍にかかったことのある人/水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼小児(15歳未満)				クマリン系抗凝血薬、チアジド系利尿薬、リチウム製剤	体温降下
		鼻水・鼻づまり・くしゃみ	無水カフェイン	高齢者、胃・十二指腸潰瘍にかかったことのある人					不眠、動悸、胃腸障害
			塩酸ジフェンヒドラミン	高齢者/緑内障、前立腺肥大の診断を受けた人 乗物または機械類の運転操作をしない					
			フマル酸クレマスチン	高齢者 乗物または機械類の運転操作をしない					眠気、口渇、尿閉、緑内障
			マレイン酸カルピノキサミン	高齢者 乗物または機械類の運転操作をしない					眠気、口渇、尿閉、緑内障
		せき	d-マレイン酸クロルフェニラミン	高齢者 乗物または機械類の運転操作をしない					眠気、口渇、尿閉、緑内障
			臭化水素酸デキストロメトルファン	高齢者	MAO阻害剤 (臨・措)MAO阻害剤(phenelzine)との併用により、痙攣、反射亢進、異常高熱、昏睡等の症状が現れたとの報告がある。(機・因)機序は不明		CYP2D6を阻害する薬剤	眠気	
			ヒベンズ酸チベピジン	高齢者				眠気	
			リン酸ジヒドロコデイン	高齢者			中枢神経抑制薬(フェノチアジン系薬剤、バルビツール酸系薬剤等)、三環系抗うつ薬、吸入麻酔薬、MAO阻害薬、β社弾薬、アルコール	連用、気管支喘息患者、便秘の副作用	
		痰	dl-塩酸メチルエフェドリン	高齢者	カテコールアミン製剤 (臨・措)不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがあるので併用を避けること。(機・因)相加的に作用(交感神経刺激作用)を増強させる。		MAO阻害薬、甲状腺製剤、キサンチン誘導体、ステロイド	血圧上昇、甲状腺機能亢進、糖尿病悪化	
			グアイフェネシン グアヤコールスルホン酸カリウム	高齢者 高齢者				胃部不快感 下痢	

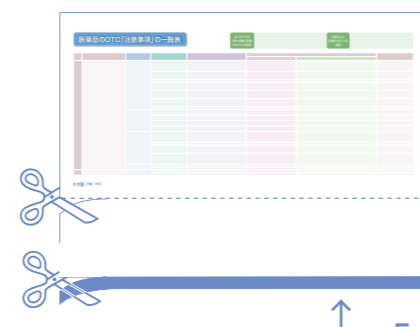
かぜ薬 (内服)

この一覧表の使用方法

[1] 全12ページをA3サイズで出力する。



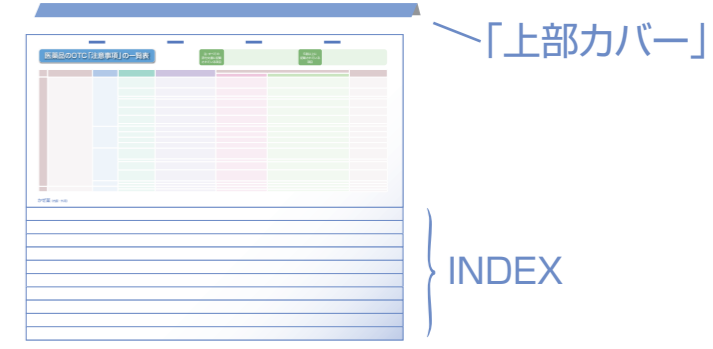
[2] 切り取り線で下部を切りとる。(1ページ目は2カ所切りとる)



[3] 1ページが上になるように重ねる。



[4] 上部を4カ所ホチキスなどとして「上部カバー」をかぶせて完成。



分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
かぜ薬 (外用)		風邪に伴う 鼻づまりやくしゃみ等	dL-カンフル L-メントール	目の周囲、粘膜、湿疹、かぶれ、傷口等には使用しないこと 目の周囲、粘膜、湿疹、かぶれ、傷口等には使用しないこと			
解熱鎮痛薬	<ul style="list-style-type: none"> 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人 出産予定日12週以内の妊婦 他の解熱鎮痛薬/かぜ薬/鎮静薬/乗物酔い薬との併用 高齢者の服用 心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人 <p>【チェックすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 15歳未満の小児がお使いになりますか？ 65歳以上の方がお使いになりますか？ 喘息ではありませんか？ 胃・十二指腸潰瘍はありませんか？ 手足に点状出血、紫斑ができやすい等の出血傾向はありませんか？ お酒は飲みますか？ 長期間又は5～6回以上服用していませんか？ 腎疾患、肝疾患、心疾患、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病である又は診断を受けたことはありませんか？ 胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病にかかったことはありませんか？ 	発熱・痛み	ロキソプロフェンナトリウム水和物	15歳未満の小児、胃・十二指腸潰瘍、肝臓病、腎臓病、心臓病の治療を受けている人／医師から赤血球数が少ない、血小板数が少ない、白血球数が少ない等の血液異常(血液の病気)を指摘されている人		クマリン系抗凝血薬、SU剤、ニューキノロン系抗菌剤、メトトレキサート、リチウム製剤、チアジド系利尿薬	
			アセトアミノフェン	15歳未満の小児		クマリン系抗凝血薬、チアジド系利尿薬、リチウム製剤、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、プリミドン、リファンピシン、イソニアジド、抗生物質・抗菌薬、アルコール	
			アスピリン	胃・十二指腸潰瘍を起こしている人、またはかかった事のある人／出血傾向のある人／15歳未満		NSAIDs、糖尿病用薬、抗凝血薬・抗血小板薬、β遮断薬、ACE阻害薬、利尿薬、尿酸排泄促進薬、ニトログリセリン、バルプロ酸Na、リチウム製剤、SSRI、塩酸ドネペジル、副腎皮質ホルモン剤、抗アレルギー薬、メトトレキサート、タクロリムス、シクロスポリン、乳酸ナトリウム、アルコール	
			イソプロピルアンチピリン				
			イブプロフェン	15才未満の小児／心臓病、腎臓病、肝臓病、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病の診断を受けた人／胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病にかかったことがある人	水痘(水ぼうそう)もしくはインフルエンザにかかっている又はその疑いがある小児	ジドブジン (臨・措)血友病患者において出血傾向が増強したとの報告がある。(機・因)機序は不明である。	クマリン系抗凝血薬、アスピリン製剤、チアジド系利尿薬、ループ利尿薬、リチウム製剤、メトトレキサート、タクロリムス、シクロスポリン、ニューキノロン系抗菌薬、コレステラミン
			エテンザミド				クマリン系抗凝血薬、チアジド系利尿薬、リチウム製剤
			アリルイソプロピルアセチル尿素 プロムワレリル尿素	乗物または機械類の運転操作をしない			
			合成ケイ酸アルミニウム	透析を受けている人／アルミニウムとキレートを形成する恐れのある薬剤との併用			中枢神経抑制薬、フェノチアジン誘導体、バルビツール酸誘導体、アルコール
			合成ヒドロタルサイト	透析を受けている人／抗コリン作用を有する薬剤やアルミニウム、マグネシウムとキレートを形成する恐れのある薬剤との併用			テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌薬、ビスホスホネート系薬剤、クエン酸製剤、血清カリウム抑制イオン交換樹脂、ジギタリス製剤、鉄剤、フェキシフェナジン、フェニトイン、甲状腺ホルモン剤、胆汁酸製剤、キニジン、ベニシラミン、ミコフェノール酸モフェチル、セフジニル、アジスロマイシン、セレコキシブ、ロスバスタチン、ラベプラゾール、ガバベンチン等
			メタケイ酸アルミン酸マグネシウム 無水カフェイン	透析を受けている人／アルミニウム、マグネシウムとキレートを形成する恐れのある薬剤との併用			テトラサイクリン系抗生物質、キノロン系抗菌薬
催眠鎮静薬	<ul style="list-style-type: none"> 他の催眠鎮静薬、かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬と併用 高齢者の服用、排尿困難のある人 <p>【チェックすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運転または機械類の操作はしますか？ 65歳以上の方がお使いになりますか？ 心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍の診断を受けたことはありませんか？ 5～6回以上服用していませんか？ 	一時的な不眠	塩酸ゾフェンヒドラミン	日常的に不眠の人・不眠症の診断を受けた人／緑内障、前立腺肥大の診断を受けた人 乗物または機械類の運転操作をしない		向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	服用後の自動車の運転、高所での作業、機械の操作、抗コリン作用による、口渇、排尿困難に注意。前立腺肥大症、授乳中の人は使用しない。
眠気防止薬	短期間の服用にとどめ、連用しない <p>【チェックすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 胃酸過多ではありませんか？ 心臓病、胃潰瘍はありませんか？ 紅茶又はコーヒーを飲みますか？ 長期間使っていませんか？ 	眠気	ビタミンB1 ビタミンB2				栄養ドリンク剤との併用
			カフェイン	胃酸過多の人／心臓病・胃潰瘍の診断を受けた人 カフェインを含有する飲料又は医薬品等と同時に服用しない			胃腸障害、シメチジン、ニューキノロン系抗菌薬などの併用により作用が増強される
			無水カフェイン	胃酸過多の人／心臓病・胃潰瘍の診断を受けた人 カフェインを含有する飲料又は医薬品等と同時に服用しない			胃腸障害、シメチジン、ニューキノロン系抗菌薬などの併用により作用が増強される

かぜ薬(外用) 解熱鎮痛薬・催眠鎮静薬・眠気防止薬

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
(乗物酔防止薬、鎮うん薬を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・排尿困難の症状のある人 ・緑内障、心臓病の診断を受けた人 <p>【チェックすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児がお使いになりますか？ ・運転または機械類の操作はしますか？ ・緑内障、排尿困難はありませんか？ 		塩酸ジフェニドール	他の乗物酔い薬、かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、胃腸鎮痛鎮痙薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用乗物又は機械類の運転操作をしない			
			塩酸メクリジン	他の乗物酔い薬、かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、胃腸鎮痛鎮痙薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用乗物又は機械類の運転操作をしない			眠気、口渇、羞明などが多く見られる。抗コリン作用がある
			サリチル酸ジフェンヒドラミン	発熱している小児		向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	眠気、口渇、羞明などが多く見られる。抗コリン作用がある
			ジメンヒドリナート	緑内障、心臓病、てんかん、甲状腺機能障害の診断を受けた人乗物又は機械類の運転操作をしない	MAO阻害剤 (臨・措)本剤の抗コリン作用が持続・増強される。(機・因)モノアミン酸化酵素阻害剤が本剤の代謝速度を遅らせることによる。	中枢神経抑制薬、麻酔薬等、アルコール、アミノ糖系抗生物質	眠気、口渇、羞明などが多く見られる。抗コリン作用がある
			d-マレイン酸コロルフェニラミン	乗物又は機械類の運転操作をしない		向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	中枢抑制作用、眠気、抗コリン作用
			臭化水素酸スコラミン	乗物又は機械類の運転操作をしない		抗コリン作用を有する薬剤、ドパミン拮抗薬	中枢抑制作用、眠気、抗コリン作用
			ロートエキス	乗物又は機械類の運転操作をしない		三環系抗うつ剤、フェノチアジン系薬剤、MAO阻害剤、抗ヒスタミン剤、イソニアジド	中枢抑制作用、眠気、抗コリン作用
			ジプロフィリン	15歳未満の小児／てんかん、甲状腺機能障害の診断を受けた人		他のキサンチン系薬剤、中枢神経興奮薬	シメチジン、ニューキノロン系抗菌薬などの併用により作用が増強される
			テオフィリン			他のキサンチン系薬剤、中枢神経興奮薬、β刺激薬、ハロタン、塩酸ケタミン、肝薬物代謝酵素を阻害する薬剤、ザフィルルカスト、アシクロビル、バラシクロビル、インターフェロン、イプリフラボン、シクロスポリン、アロプリノール、肝薬物代謝酵素を誘導する薬剤、ジビリだモール、ラマトロバン、リルゾール、タバコ	シメチジン、ニューキノロン系抗菌薬などの併用により作用が増強される
無水カフェイン				シメチジン、ニューキノロン系抗菌薬などの併用により作用が増強される			
小児鎮静薬 (小児五疳薬等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきつけ、下痢、消化不良、乳はきに5～6回服用しても症状がよくならない場合 ・小児の疳、かんむし、夜泣き、食欲不振、胃腸虚弱に1ヶ月間服用しても症状がよくならない場合 <p>【チェックすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下痢はおこっていませんか？ ・高熱は続いていませんか？ ・5～6回以上服用していませんか？ ・1ヶ月以上使っていませんか？ 	小児の疳、かんむし、夜泣き、ひきつけ、下痢、消化不良、食欲不振、胃腸虚弱、乳はき	オウレン、カンゾウ、カンゾウ、ギユウタン、ゴオウ、ジャコウ、ジソコウ、チョウジ、ニンジン、ユウタン、レイヨウカク等の生薬	激しい下痢、高熱の症状のある小児			
精神神経用薬 (その他の)		筋肉の異常な緊張	メトカルバモール エテンザミド	心臓病、肝臓病、腎臓病、胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人 心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人		中枢神経抑制剤(フェノチアジン系薬剤、バルビツール酸系薬剤等)、アルコール、MAO阻害薬、トルペリジン塩酸塩 クマリン系抗凝血薬、チアジド系利尿薬、リチウム製剤	
ヒスタミン(H ₂)受容体拮抗剤	<ul style="list-style-type: none"> ・3日間服用しても症状の改善がみられない場合 ・2週間を超えて続けて服用しない <p>【チェックすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透析療法を受けていませんか？ ・長期間使っていませんか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・のどの痛み、咳及び高熱はありませんか？ ・原因不明の体重減少はありませんか？ ・持続性の腹痛はありませんか？ ・血液疾患、腎疾患、肝疾患、心疾患、喘息、リウマチはありませんか？ 	胃痛、胸やけもたれ、むかつき	シメチジン 塩酸ラニチジン ファモチジン	血液の病気、腎臓・肝臓の病気、胃・十二指腸の病気、喘息・リウマチ等の免疫系の病気の治療中の人／ステロイド剤、抗生物質、抗がん剤、アゾール系抗真菌剤等の服用をしている人／小児(15歳未満)および高齢者(80歳以上)／のどの痛み、咳および高熱、原因不明の体重減少、持続性の腹痛の症状のある人乗物又は機械類の運転操作をしない		クマリン系抗凝血薬、ベンゾジアゼピン系薬剤、抗てんかん薬、抗うつ薬、β遮断薬、Ca拮抗薬、抗不整脈薬、キサンチン系薬剤、プロカインアミド、エリスロマイシン クマリン系抗凝血薬、トリアゾラム、アザタナビル、デラビルジン、ゲフィチニブ アゾール系抗真菌薬	併用注意:クマリン系抗凝固薬(ワルファリン)、ベンゾジアゼピン系薬剤(ジアゼパム、トリアゾラム等)、抗てんかん薬(フェイニトイン、カルバマゼピン等)、三環系抗うつ薬(イミプラミン等)、β遮断薬(プロプラノロール、メトプロロール、ラベタロール等)、カルシウム拮抗薬(ニフェジピン)、抗不整脈薬(リドカイン)、キサンチン系薬(テオフィリン等)、プロカインアミド、エリスロマイシン アゾール系抗真菌薬(イトラコナゾール)との併用注意。

鎮うん薬・小児鎮静薬・その他の精神神経用薬・ヒスタミン(H₂)受容体拮抗剤

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
制酸薬	<ul style="list-style-type: none"> 腎臓病、高血圧、心臓病の診断を受けた人 排尿困難の症状がある人 <p>【チェックすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 透析療法を受けていませんか？ 2週間以上使っていませんか？ 65歳以上の方がお使いになりますか？ 腎疾患はありませんか？ 他に服用している薬はありませんか？ 	胃の痛み、胸やけ	ケイ酸アルミン酸マグネシウム	透析療法を受けている人／胃腸鎮痛鎮痙薬との併用		テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌薬	テトラサイクリン、ニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用に注意
			メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	透析療法を受けている人／胃腸鎮痛鎮痙薬との併用		テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌薬	テトラサイクリン、ニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用に注意
			合成ヒドタルサイト	透析療法を受けている人／胃腸鎮痛鎮痙薬との併用		テトラサイクリン系抗生物質、キノロン系抗菌薬、大量の牛乳、カルシウム製剤、併用薬	テトラサイクリン、ニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用に注意
			ジヒドロキシアルミニウムアミノアセート	透析療法を受けている人／胃腸鎮痛鎮痙薬との併用		テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌薬、ビスホスホネート系薬剤、クエン酸製剤、血清カリウム抑制イオン交換樹脂、ジギタリス製剤、鉄剤、フェキシフェナジン、フェニトイン、甲状腺ホルモン剤、胆汁酸製剤、キニジン	テトラサイクリン、ニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用に注意
			乾燥水酸化アルミニウムゲル			テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌薬、ビスホスホネート系薬剤、クエン酸製剤、血清カリウム抑制イオン交換樹脂、ジギタリス製剤、鉄剤、フェキシフェナジン、フェニトイン、甲状腺ホルモン剤、胆汁酸製剤、キニジン	透析療法を受けている人。テトラサイクリンおよびニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用。
			ロートエキス 塩酸ピレンゼピン	特に緑内障、排尿困難の人		三環系抗うつ剤、フェノチアジン系薬剤、MAO阻害剤、抗ヒスタミン剤、イソニアジド	胃腸鎮痛鎮痙薬との併用注意
			沈降炭酸カルシウム	甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症のある人／心臓病、腎臓病、高カルシウム血症の人		テトラサイクリン系抗生物質、強心配糖体、大量の牛乳、炭酸水素ナトリウム、マグネシウム剤、ビタミンD、チアジド系利尿薬	テトラサイクリン、ニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用に注意
			酸化マグネシウム	胃腸鎮痛鎮痙薬との併用		テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤、ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤、セフジニル、ミコフェノール酸モフェチル、デラビルジン、ザルシタピン、ペニシラミン、アジスロマイシン、セレコキシブ、ロスバスタチン、ラベプラゾール、ガバペンチン、ジギタリス製剤、鉄剤、フェキシフェナジン、ポリカルボフィルカルシウム、高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤、活性型ビタミンD3製剤、大量の牛乳、カルシウム製剤、ミソプロストール	テトラサイクリン、ニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用に注意
			炭酸水素ナトリウム	腎臓病の診断を受けた人	ヘキサミン (臨・措)本剤はヘキサミンの効果を減弱させることがある。(機・因)ヘキサミンは酸性尿中でホルムアルデヒドとなり抗菌作用を発現するが、本剤は尿のpHを上昇させヘキサミンの効果を減弱させる。	大量の牛乳、カルシウム製剤	
			炭酸マグネシウム	腎臓病の診断を受けた人		テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤、大量の牛乳、カルシウム製剤	テトラサイクリン、ニューキノロン系抗菌薬、エチドロン酸二ナトリウムとの併用に注意
健胃薬	2週間位服用しても症状がよくならない場合 【チェックすること】 透析療法を受けていませんか？ 2週間以上使っていませんか？ 腎疾患はありませんか？	胃もたれ、消化不良、胃部・腹部膨満感等	マレイン酸トリメプチン				妊婦または妊娠している人、授乳中の人は使用を避ける
			塩化カルニチン				急性膵炎または慢性膵炎、妊婦または妊娠している人、授乳中の人は使用を避ける
整腸薬	1ヵ月位服用しても症状がよくならない場合 【チェックすること】 2週間以上使っていませんか？ 発熱を伴う下痢、血便、粘液便ではありませんか？ 急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢ではありませんか？ 65歳以上がお使いになりますか？ 心臓病、緑内障、排尿困難はありませんか？	整腸、腹部膨満感 軟便、便秘	ビフィズス菌末				
			アシドフィルス菌末				
			ラクトミン				
			ラックビー				
			ラクボン				
			宮入菌末				
消化薬	【チェックすること】 透析療法を受けていませんか？ 2週間以上使っていませんか？ 腎疾患をお持ちですか？	消化促進、消化不良 食欲不振等	タカザアスターゼ				
			ウルソデオキシコール酸	2週間位服用しても症状がよくならない場合		SU剤、コレステラミン等、AI含有制酸剤、脂質低下剤	妊婦または妊娠している人は使用を避ける
			ジアスターゼ				
			パンクレアチン				
			デヒドロコール酸				妊婦または妊娠している人は使用を避ける

制酸薬・健胃薬・整腸薬・消化薬

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの	【チェックすること】 ・透析療法を受けていませんか？ ・2週間以上使っていませんか？ ・65歳以上がお使いになりますか？ ・腎臓病、心臓病、緑内障、排尿障害はありませんか？		アルジオキサ	腎臓病の診断を受けた人／透析を行っている人		テトラサイクリン系抗生物質、キノロン系抗菌剤	
			スクララファート	腎臓病の診断を受けた人／透析を行っている人		テトラサイクリン系抗生物質、キノロン系抗菌剤、血清カリウム抑制イオン交換樹脂、クエン酸製剤、ジギタリス製剤、フェニトイン、スルピリド、甲状腺ホルモン剤、胆汁酸製剤、テオフィリン徐放性製剤、キニジン等	
胃腸鎮痛鎮けい薬	他の胃腸鎮痛鎮けい薬との併用 【チェックすること】 ・熱はありませんか？ ・便に血や黒い固まりは混ざっていますか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・腎疾患はありませんか？		塩酸オキシフェンサイクリミン	ロートエキスを含有する他の胃腸薬との併用 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		抗コリン作用を有する薬剤	
			塩酸ジサイクロミン	ロートエキスを含有する他の胃腸薬との併用 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		抗コリン作用を有する薬剤	
			臭化メチルアトロピン	ロートエキスを含有する他の胃腸薬との併用 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		抗コリン作用を有する薬剤、ジギタリス製剤、プラリドキシムヨウ化メチル	
			臭化メチルバナクチジウム	緑内障、前立腺肥大による排尿障害、重い心疾患、麻痺性イレウスのある人		抗コリン作用を有する薬剤	
			臭化メチルオクタトロピン	ロートエキスを含有する他の胃腸薬との併用 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		抗コリン作用を有する薬剤、ジギタリス製剤、プラリドキシムヨウ化メチル	
			臭化プチルスコポラミン	ロートエキスを含有する他の胃腸薬、他の胃腸鎮痛鎮けい薬、乗物酔い薬との併用 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		抗コリン作用を有する薬剤、ドパミン拮抗薬	出血性大腸炎の人は注意
			臭化チメピジウム	ロートエキスを含有する他の胃腸薬との併用 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		抗コリン作用を有する薬剤	
			ヨウ化インプロバミド	ロートエキスを含有する他の胃腸薬との併用 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人			
			ロートエキス	排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		三環系抗うつ剤、フェノチアジン系薬剤、MAO阻害剤、抗ヒスタミン剤、イソニアジド	
			塩酸ノバペリン	ロートエキスを含有する他の胃腸薬 排尿困難の人、麻痺性イレウス、心臓病、腎臓病、緑内障の診断を受けた人		レボドパ	
			アミ/安息香酸エチル				メトヘモグロビン血症の人は注意。6歳未満の小児は使用を避ける、
			オキセサゼイン	15歳未満の小児、他の胃腸薬、他の胃腸鎮痛鎮けい薬、長期連用をしない			
			止瀉薬	胃腸鎮痛鎮けい薬との併用、服薬時の飲酒 【チェックすること】 ・熱はありませんか？ ・便に血や黒い固まりは混ざっていますか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・腎疾患はありませんか？	下痢	アクリノール	発熱を伴う下痢のある人／血便のある人又は粘液便の続く人 ／急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人 一週間以上の服用
塩化ベルベリン	発熱を伴う下痢のある人／血便のある人又は粘液便の続く人 ／急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人 一週間以上の服用						
クレオソート	発熱を伴う下痢のある人、血便のある人又は粘液便の続く人						
タンニン酸ベルベリン	急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人						
次硝酸ピスマス	急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人						1週間以上継続して服用しない、服用時は飲酒しない
次没食子酸ピスマス	急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人						1週間以上継続して服用しない、服用時は飲酒しない
タンニン酸アルブミン	牛乳によりアレルギー症状を起こしたことがある人／急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人	経口鉄剤 (臨・措)併用により、相互に作用が減弱することがあるので併用しない。(機・因)本剤は鉄と結合しタンニン酸鉄となり、タンニン酸による取れん作用が減弱すると考えられる。				塩酸ロベラミド	
ヒドロキシナフトエ酸アルミニウム	透析療法を受けている人、腎臓病と診断された人					テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤	
塩酸ロベラミド	急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人					ケイ酸アルミニウム、タンニン酸アルブミン、リトナビル、キニジン	服用後の自動車の運転、高所での作業、機械の操作をさける。授乳中の人は使用を避ける。
乳酸カルシウム	高カルシウム血症、腎結石、重い腎臓病のある人／急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人					ジギタリス製剤、テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤	
沈降炭酸カルシウム	急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人					ジギタリス製剤、テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤	
カオリン	急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人						

制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの・胃腸鎮痛鎮けい薬・止瀉薬

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考	
					併用禁忌	併用注意		
瀉下薬 (下剤)	他の瀉下薬との併用 はげしい腹痛、悪心・嘔吐のある人 【チェックすること】 ・透折療法を受けていますか？ ・他の胃や腸の痛みをおさえる薬を使っていますか？ ・2週間以上使っていませんか？	便秘および便秘に伴う諸症状	ヒマシ油	駆虫薬との併用				
			センナ					
			センノシド					母乳に移行するため授乳中の人は注意
			ピコスルファート					腹痛や悪心、嘔吐
			ピサコジル					
			シオクチルソジウムスルホサクシネート					
			酸化マグネシウム	腎臓病の診断を受けた人		テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤、ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤、セフジニル、ミコフェノール酸モフェチル、デラビルジン、ザルシタピン、ペニシラミン、アジスロマイシン、セレコキシブ、ロスバスタチン、ラベプラゾール、ガバペンチン、ジギタリス製剤、鉄剤、フェキソフェナジン、ポリカルボフィルカルシウム、高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤、活性型ビタミンD3製剤、大量の牛乳、カルシウム製剤、ミソプロストール	高マグネシウム血症	
			硫酸マグネシウム	腎臓病の診断を受けた人		リトドリン塩酸塩	高マグネシウム血症	
			カルボキシメチルセルロースナトリウム				腹痛や悪心、嘔吐	
浣腸薬	【チェックすること】 ・1歳未満の乳児がお使いになりますか？ ・65歳以上がお使いになりますか？ ・激しい腹痛、吐き気・嘔吐、痔出血はありませんか？ ・心疾患ではありませんか？ ・連用してはいませんか？	便秘	ピサコジル	連用しない はげしい腹痛、悪心・嘔吐のある人				腹痛や悪心、嘔吐
			グリセリン	連用しない はげしい腹痛、悪心・嘔吐のある人／心臓病の診断を受けた人				腹痛や悪心、嘔吐
			D-ソルビトール	連用しない はげしい腹痛、悪心・嘔吐のある人				腹痛や悪心、嘔吐
			クエン酸ナトリウム	連用しない はげしい腹痛、悪心・嘔吐のある人				腹痛や悪心、嘔吐
駆虫薬	他の駆虫薬、ヒマシ油との併用 【チェックすること】 ・2回以上続けて服用していませんか？	ぎょう虫の駆除	サントニン	3回以上続けて服用しない 肝臓病の診断を受けた人	ヒマシ油、加香ヒマシ油 (臨・措)本剤の中毒症状(感覚異常、頭痛、悪心、腹痛等)があらわれることがある。(機・因)本剤の吸収が促進される。			
			パモ酸ピルピニウム リン酸ピペラジン	2回以上続けて服用しない				
用貧血薬	【チェックすること】 ・2週間以上使っていませんか？	貧血症状	フマル酸第一鉄	他の貧血薬との併用			テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤、甲状腺ホルモン製剤、制酸剤、タンニン酸を含有するもの	
			溶性ピロリン酸第二鉄	他の貧血薬との併用			テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤、甲状腺ホルモン製剤、制酸剤、セフジニル、タンニン酸を含有するもの	
その他の循環器薬	【チェックすること】 ・消化性潰瘍、てんかん、腎不全、気管支ぜんそくではありませんか？		イコサバント酸エチル	血友病、消化管出血、尿路出血、咯血、眼底出血などの人 手術や抜歯の予定のある人				
鎮咳去痰薬	他の鎮咳去痰薬、かぜ薬、鎮静薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等と併用 ・乗物又は機械類の運転操作をしない ・高熱、排尿困難の症状のある人 ・心臓病、高血圧、糖尿病、緑内障、甲状腺機能障害の診断を受けた人 【チェックすること】 ・高熱は続いていますか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・小児がお使いになりますか？ ・痰ににおいまたは血は混ざっていますか？ ・運転または機械類の操作はしますか？ ・お酒は飲みますか？ ・長期間使っていませんか？ ・腎疾患、心疾患はありませんか？ ・高血圧、糖尿病、肝疾患はありませんか？ ・緑内障はありませんか？ ・胃の疾患はありませんか？ ・甲状腺疾患はありませんか？	咳、痰	クエン酸チベピジン					
			ヒベンズ酸チベピジン					
			臭化水素酸デキストロトルファン		MAO阻害剤 (臨・措)MAO阻害剤(phenelzine)との併用により、痙攣、反射亢進、異常高熱、昏睡等の症状が現れたとの報告がある。(機・因)機序は不明	CYP2D6を阻害する薬剤		
			リン酸ジヒドロコデイン	過量服用・長期連用しない		中枢神経抑制薬、三環系抗うつ薬、吸入麻酔薬、MAO阻害薬、β遮断薬、アルコール	気管支喘息の患者は使用を避ける。便秘	
			塩酸トリメキノール	過量服用・長期連用しない		カテコールアミン製剤 (臨・措)不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがあるので併用を避けること。(機・因)相加的に作用(交感神経刺激作用)を増強させる。	カテコールアミン製剤、キサンチン誘導体、ステロイド薬、β2刺激薬	
			dl-塩酸メチルエフェドリン			MAO阻害薬、甲状腺製剤、キサンチン誘導体、ステロイド	高血圧、心疾患、甲状腺機能亢進症、糖尿病、高齢者	
			シプロフィリン			他のキサンチン系薬剤、中枢神経興奮薬		
			テオフィリン	過量服用・長期連用しない、発熱している小児、けいれんを起こしたことがある小児		他のキサンチン系薬剤、中枢神経興奮薬、β刺激薬、ハロタン、塩酸ケタミン、肝薬物代謝酵素を阻害する薬剤、ザフィルルカスト、アシクロビル、バラシクロビル、インターフェロン、イプリフラボン、シクロスポリン、アロプリノール、肝薬物代謝酵素を誘導する薬剤、ジピリダモール、ラマトロバン、リルゾール、タバコ	肺結核など	
			グアヤコールスルホン酸カリウム				肺結核など	
			塩酸プロムヘキシシ					
			d-マレイン酸クロルフェニラミン			向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ		
			ノスカピン					
リン酸ジメモルファン				血糖値に影響を与えるおそれがある				
グアイフェネシン				肺結核など				
塩化リゾチーム	鶏卵によるアレルギー症状を起こしたことがある人							

瀉下薬(下剤)・浣腸薬・駆虫薬・貧血薬・その他の循環器薬・血液薬・鎮咳去痰薬

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考			
					併用禁忌	併用注意				
含嗽薬	【チェックすること】 ・口内のひどいただれはありませんか？ ・5～6日間以上使っていませんか？	口腔内の殺菌・消毒・洗淨、口臭の除去	チモール	口内のひどいただれのある人						
			塩化セチルピリジニウム	口内のひどいただれのある人						
			塩化デカリニウム							
			塩化ベンゼトニウム							
内用痔疾用薬	【チェックすること】 ・化膿していませんか？ ・長期間使っていませんか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・下痢はありませんか？	痔	グリチルリチン酸二カリウム	口内のひどいただれのある人			むくみ、血圧上昇、偽アルドステロン症			
			トメントール	口内のひどいただれのある人						
			ポピドンヨート	甲状腺の疾患のある人、口内のひどいただれのある人						
			カルバノクロム	下痢の症状のある人			食欲不振			
外用痔疾用薬	【チェックすること】 ・化膿していませんか？ ・長期間使っていませんか？ ・65歳以上がお使いになりますか？ ・高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害ではありませんか？	痔	酢酸ヒドロコルチゾン				発疹、かゆみで使用中止する			
			酢酸プレドニソロン				発疹、かゆみで使用中止する			
			塩酸ジフェンヒドラミン	乗物又は機械類の運転操作をしない			発疹、かゆみで使用中止する			
			d-マレイン酸クロルフェニラミン	乗物又は機械類の運転操作をしない			長期連用をしない。皮膚感染症の悪化、皮膚炎、かぶれを起こす可能性がある			
			塩酸テトラヒドロソロン		MAO阻害剤 (臨・措)MAO阻害剤 (phenelzine)との併用により、痙攣、反射亢進、異常高熱、昏睡等の症状が現れたとの報告がある。(機・因)機序は不明			長期連用をしない。皮膚感染症の悪化、皮膚炎、かぶれを起こす可能性がある		
			塩酸ナファソリン		MAO阻害剤 (臨・措)MAO阻害剤 (phenelzine)との併用により、痙攣、反射亢進、異常高熱、昏睡等の症状が現れたとの報告がある。(機・因)機序は不明			母乳に移行するため注意。		
			dl-塩酸メチルエフェドリン		カテコールアミン製剤 (臨・措)不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがあるので併用を避けること。(機・因)相加的に作用(交感神経刺激作用)を増強させる。			甲状腺機能障害、糖尿病、心臓病、高血圧の人はdl-メチルエフェドリン塩酸塩の交感神経刺激作用により症状が悪化するおそれがある		
			塩化リゾチーム	鶏卵によるアレルギー症状を起こしたことがある人				卵白アレルギーのある人は禁忌。		
			グリチルレチン酸					長期、大量の使用による偽アルドステロン症に注意。高血圧、心臓病、腎臓病の人、浮腫のある人は大量使用で悪化のおそれがある。		
			クロタミトン					発疹、かゆみ、刺激感などが現れたら使用中止。		
			その他の泌尿生殖器及び肛門用薬	【チェックすること】 ・化膿していませんか？ ・長期間使っていませんか？ ・病院または医院にかかっていますか？ ・アレルギー症状を起こしたことがありますか？ ・10日間以上使っていませんか？		テストステロン	アンドロゲン依存性腫瘍[例えば前立腺腫瘍、乳腫瘍(悪性)]及びその疑いのある人、小児(15歳未満)、排尿困難を伴う前立腺肥大のある人、前立腺特異抗原(PSA)の値が2.0ng/mL以上の人、睡眠時無呼吸症候群である人 目や目の周囲、粘膜、陰茎部先端(尿道口)、外陰部、外傷、炎症、湿疹、ただれ、化膿などのある部位には使用しないこと 男性ホルモンを含んだいずれの医薬品との併用、重度の心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧またはその既往症のある人		抗凝血剤	
						メチルテストステロン	アンドロゲン依存性腫瘍[例えば前立腺腫瘍、乳腫瘍(悪性)]及びその疑いのある人、小児(15歳未満)、排尿困難を伴う前立腺肥大のある人、前立腺特異抗原(PSA)の値が2.0ng/mL以上の人、睡眠時無呼吸症候群である人 目や目の周囲、粘膜、陰茎部先端(尿道口)、外陰部、外傷、炎症、湿疹、ただれ、化膿などのある部位には使用しないこと 男性ホルモンを含んだいずれの医薬品との併用、重度の心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧またはその既往症のある人		抗凝血剤	
塩酸ヨヒンビン	他のヨヒンビン製剤との併用、下腹部臓器の慢性炎症、泌尿生殖器の炎症のある人又は排尿困難な人									
硝酸ストリキニーネ	心臓病、高血圧の人 心臓病、高血圧の人									

含嗽薬・内用痔疾用薬・外用痔疾用薬・その他の泌尿生殖器及び肛門用薬

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考	
					併用禁忌	併用注意		
その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬			塩酸ゾピカイン	アンドロゲン依存性腫瘍〔例えば前立腺腫瘍、乳腫瘍(悪性)〕及びその疑いのある人、小児(15歳未満)、排尿困難を伴う前立腺肥大のある人、前立腺特異抗原(PSA)の値が2.0ng/mL以上の人、睡眠時無呼吸症候群である人、目や目の周囲、粘膜、陰茎部先端(尿道口)、外陰部、外傷、炎症、湿疹、ただれ、化膿などのある部位には使用しないこと 男性ホルモンを含んだいずれの医薬品との併用、重度の心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧またはその既往症のある人				
			マンデル酸ヘキサミン	腎機能の低下のある人、炭酸水素ナトリウムを含む胃腸薬(制酸薬)などとの併用	尿をアルカリ性にする薬剤 (臨・措)本剤の効果が減弱することがある。(機・因)本剤は酸性尿(pHが5.5以下)中で抗菌作用を発現するが、尿をアルカリ性にする薬剤は本剤の作用を減弱させる。	尿をアルカリ性にする薬剤(炭酸水素ナトリウム等)		
			塩酸ゾフェンヒドラミン	乗物または機械類の運転操作をしない			向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	
ビタミン主薬製剤			ビタミンA	過量服用しない	エトレチナート (臨・措)ビタミンAの正常血中濃度には影響を及ぼさないが、ビタミンA過剰症と類似した副作用症状があらわれることがある。(機・因)エトレチナートのビタミンA様作用により、ビタミンAの作用が増強される。 トレチノイン (臨・措)ビタミンA過剰症と類似した副作用症状を起こすおそれがある。(機・因)トレチノインはビタミンAの活性代謝物である。 タミバロテン (臨・措)ビタミンA過剰症と類似した副作用症状を起こすおそれがある。(機・因)タミバロテンはビタミンAと同じレチノイドである。		妊娠3ヵ月以内の妊婦、妊娠していると思われる人又は妊娠を希望する人には禁忌	
			ビタミンD(アルファカルシドール)	チアジド系の降圧利尿薬、強心薬(ジギタリス系)、カルシウム剤との併用				
			ビタミンB1(塩酸チアミン)					
			ビタミンB2					
			ビタミンB6(塩酸ピリドキシン)					大量投与による知覚異常
			ビタミンB12(メコバラミン)					
			ビタミンC(アスコルビン酸)					胃部不快感、悪心・嘔吐、下痢
		ビタミンE						
ビタミン含有保健薬(ビタミン剤等)			ビタミンA	妊娠3ヵ月以内の妊婦、妊娠していると思われる人又は妊娠を希望する人	エトレチナート (臨・措)ビタミンAの正常血中濃度には影響を及ぼさないが、ビタミンA過剰症と類似した副作用症状があらわれることがある。(機・因)エトレチナートのビタミンA様作用により、ビタミンAの作用が増強される。 トレチノイン (臨・措)ビタミンA過剰症と類似した副作用症状を起こすおそれがある。(機・因)トレチノインはビタミンAの活性代謝物である。 タミバロテン (臨・措)ビタミンA過剰症と類似した副作用症状を起こすおそれがある。(機・因)タミバロテンはビタミンAと同じレチノイドである。		妊娠3ヵ月以内の妊婦、妊娠していると思われる人又は妊娠を希望する人には禁忌	
カルシウム主薬製剤		カルシウムの補給	グルコン酸カルシウム		リン酸エストラムスチンナトリウム (臨・措)リン酸エストラムスチンナトリウムの効果が減弱するおそれがある。(機・因)カルシウムがリン酸エストラムスチンナトリウムと難溶性のキレートを形成し、リン酸エストラムスチンの吸収を阻害する。	テトラサイクリン系抗生物質、強心配糖体、大量の牛乳、炭酸水素ナトリウム、マグネシウム剤、ビタミンD、チアジド系利尿薬		
	炭酸カルシウム				テトラサイクリン系抗生物質、強心配糖体、大量の牛乳、炭酸水素ナトリウム、マグネシウム剤、ビタミンD、チアジド系利尿薬			
	乳酸カルシウム				テトラサイクリン系抗生物質			
	無水リン酸水素カルシウム				テトラサイクリン系抗生物質			
	クエン酸カルシウム				テトラサイクリン系抗生物質			
主薬製剤 ゾパ？ ゾパ？ ゾパ？		色素沈着症、全身倦怠・二日酔、にきび・湿疹など	ビタミンC(アスコルビン酸)				胃部不快感、悪心・嘔吐、下痢が現れることがある。	
避妊薬			メンフェゴール	生殖器にびらん、炎症等を起こしている人、医学上の理由(病気等)で絶対に妊娠を避けなければならない人のみ				

その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬・ビタミン主薬製剤・ビタミン含有保健薬(ビタミン剤等)・カルシウム主薬製剤・タンパク・アミノ酸主薬製剤・避妊薬

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
その他の女性用薬	【臍カンジダ治療薬】 ・感染するのははじめてですか？ ・ここ6か月の間に2回以上発疹がありましたか？ ・臍カンジダの再発であることは確かですか？ ・糖尿病ではありませんか？ ・発熱や悪寒はありませんか？ ・吐き気はありませんか？ ・下腹部の痛みはありませんか？ ・不規則又は異常な出血や血の混じったおりものはありますか？ ・臍又は外陰部に潰瘍、水膨れ又は痛みはありませんか？ ・排尿痛、排尿困難はありませんか？ ・湿潤やただれはありませんか？ ・15歳未満あるいは60歳以上ですか？ ・使用部位は外陰部以外の部位ですか？		イソコナゾール塩酸塩	以前に医師から、臍カンジダの診断・治療を受けたことがない人、臍カンジダの再発を繰り返している人、臍カンジダの再発かどうかよくわからない人、糖尿病の診断を受けた人、発熱又は悪寒がある人、悪心又は嘔吐がある人、下腹部に痛みがある人、不規則な、又は異常な出血、血の混じったおりものがある人、臍又は外陰部に潰瘍、水膨れ又は痛みがある人、排尿痛がある人、又は排尿困難な人、ただれのひどい人、60歳以上の高齢者又は15歳未満の小児			
			オキシコナゾール硝酸塩	以前に医師から、臍カンジダの診断・治療を受けたことがない人、臍カンジダの再発を繰り返している人、臍カンジダの再発かどうかよくわからない人、糖尿病の診断を受けた人、発熱又は悪寒がある人、悪心又は嘔吐がある人、下腹部に痛みがある人、不規則な、又は異常な出血、血の混じったおりものがある人、臍又は外陰部に潰瘍、水膨れ又は痛みがある人、排尿痛がある人、又は排尿困難な人、ただれのひどい人、60歳以上の高齢者又は15歳未満の小児			
			クロトリマゾール	以前に医師から、臍カンジダの診断・治療を受けたことがない人、臍カンジダの再発を繰り返している人、臍カンジダの再発かどうかよくわからない人、糖尿病の診断を受けた人、発熱又は悪寒がある人、悪心又は嘔吐がある人、下腹部に痛みがある人、不規則な、又は異常な出血、血の混じったおりものがある人、臍又は外陰部に潰瘍、水膨れ又は痛みがある人、排尿痛がある人、又は排尿困難な人、ただれのひどい人、60歳以上の高齢者又は15歳未満の小児			
			ネチコナゾール塩酸塩	以前に医師から、臍カンジダの診断・治療を受けたことがない人、臍カンジダの再発を繰り返している人、臍カンジダの再発かどうかよくわからない人、糖尿病の診断を受けた人、発熱又は悪寒がある人、悪心又は嘔吐がある人、下腹部に痛みがある人、不規則な、又は異常な出血、血の混じったおりものがある人、臍又は外陰部に潰瘍、水膨れ又は痛みがある人、排尿痛がある人、又は排尿困難な人、ただれのひどい人、60歳以上の高齢者又は15歳未満の小児			
			トリコマイシン	患部が広範囲の人、湿潤やただれのひどい人			
			クロラムフェニコール	水痘(水ぼうそう)、みずむしたむし等への使用			
			エチニルエストラジオール	エストロゲン依存性腫瘍(乳ガン、子宮頸ガン、子宮体ガン)、子宮筋腫、子宮内膜症及びその疑いのある患者			
			エストラジオール	エストロゲン依存性腫瘍(乳ガン、子宮頸ガン、子宮体ガン)、子宮筋腫、子宮内膜症及びその疑いのある患者			
主薬製剤 抗ヒスタミン薬	・他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等との併用 ・乗物又は機械類の運転操作をしない ・長期連用しない、むくみ、排尿困難の症状のある人 ・心臓病、高血圧、腎臓病、緑内障の診断を受けた人 【チェックすること】 ・前立腺疾患はありませんか？ ・運転または機械類の操作はしますか？ ・5～6日間以上使っていませんか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・むくみはありませんか？ ・排尿困難はありませんか？ ・心臓病、高血圧、腎臓病、緑内障の診断を受けたことはありませんか？		セチリジン塩酸塩			テオフィリン、リトナビル、中枢神経抑制剤、アルコール、ピルシカイニド塩酸塩	
			エメダスチンフマル酸塩			向精神薬・鎮静剤・催眠剤等、抗ヒスタミン剤、アルコール	
			塩酸ジフェンヒドラミン			向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	
			d-マレイン酸クロルフェニラミン			向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	
			メキタジン			中枢神経抑制薬、抗コリン作用を有する薬剤、メトキサレン	
アレルギー用薬 その他の			dl-塩酸メチルエフェドリン	甲状腺機能亢進症、高血圧症、心臓病、糖尿病の人	カテコールアミン製剤(臨・措)不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがあるので併用を避けること。(機・因)相加的に作用(交感神経刺激作用)を増強させる。	MAO阻害薬、甲状腺製剤、キサンチン誘導体、ステロイド	
(特殊絆創膏を含む) 殺菌消毒薬	【チェックすること】 ・きり傷、湿疹、かぶれ、やけど等の皮膚の損傷面ではありませんか？	消毒	クレゾール	原液では使用しない 口唇等の粘膜の部分や目のまわりへの使用／患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
塩酸クロルヘキシジン			ただれ、深い傷など				
マーキュロクロム			口唇等の粘膜の部分や目のまわり				
ヨウ化カリウム			患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人				
塩酸ジブカイン			患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人				
リドカイン			患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人				
塩酸ナフゾリン アクリノール			患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人				

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
（特殊絆創膏を含む） 殺菌消毒薬	【チェックすること】 ・きり傷、湿疹、かぶれ、やけど等の皮ふの損傷面ではありませんか？	消毒	アクリノール	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			石けんと混ぜると効果が激減する
			塩化ベンゼトニウム	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
しもやけ・あかぎれ用薬		しもやけ あかぎれ	α-マレイン酸クロロフェニラミン	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			ヨウ素過敏感症 ヨウ素過敏感症 火気厳禁
			ポピドンヨード	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
			ヨウ素	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
			エタノール	損傷のある手指・皮ふ・口唇等の粘膜の部分、目の周りには使用しない 原液では使用しない、経口投与しない／粘膜・創傷面・炎症部に長時間又は広範囲で使用しない／医療用器具への洗浄には用いない、尿便・たん・吐物・下水・飲料水等の消毒には適さない			
			塩化ベンザルコニウム	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
			オキシドール	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
			アラントイン	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
			酢酸トコフェロール	湿潤やただれのひどい人、目や目の周囲、口唇などの粘膜の部分等			
			グリセリン	湿潤やただれのひどい人			
			ビタミンA	湿潤やただれのひどい人			
ワセリン	湿潤やただれのひどい人						
白色ワセリン	湿潤やただれのひどい人						
塩酸ジフェンヒドラミン	目や目の周囲、口唇などの粘膜の部分等						
グリチルリチン酸	湿潤やただれのひどい人						
トウガラシ	湿潤やただれのひどい人						
ニコチン酸ベンジル	湿潤やただれのひどい人						
化膿性疾患用薬	・湿潤やただれのひどい人 【チェックすること】 ・使用部位は目や目の周囲、粘膜、湿疹ではありませんか？ ・使用部位は広範囲ではありませんか？ ・湿潤やただれはありませんか？ ・深い傷やひどいやけどではありませんか？ ・硬結のある重症の人ではありませんか？ ・2週間以上使っていませんか？		サリチル酸	患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人			
			エタノール	目の周りには使用しない			
消炎薬・鎮痛・鎮痒・収れん （ハンプ剤を含む）	・目の周囲、粘膜等、皮ふの弱い部位、湿疹、かぶれ、傷口に使用しない 【チェックすること】 ・喘息ではありませんか？ ・15歳未満の小児がお使いになりますか？ ・使用部位は目の周囲、粘膜等、皮ふの弱い部位、湿疹、かぶれ、傷口、みずむし・たむし等または化膿している部分ではありませんか？ ・長期間又は5～6日間以上使っていませんか？		ジクロフェナクナトリウム	みずむし・たむし等又は化膿している患部 他の外用鎮痛消炎薬との併用、ニューキノロン系抗菌剤、トリアムテレン、リチウム、メトレキサート、非ステロイド性消炎鎮痛剤との併用 ステロイド剤、利尿剤、シクロスポリン、選択的セロトニン再取り込み阻害剤の投与を受けている人			解熱鎮痛薬で喘息発作を起こしたことのある人は喘息発作に注意、光線過敏症 解熱鎮痛薬で喘息発作を起こしたことのある人は喘息発作に注意、光線過敏症 解熱鎮痛薬で喘息発作を起こしたことのある人は喘息発作に注意、光線過敏症 解熱鎮痛薬で喘息発作を起こしたことのある人は喘息発作に注意、光線過敏症 かぶれやすい人は注意 出血しやすい人は使用を避ける 喘息発作を起こしたことのある人は使用を避ける 喘息発作を起こしたことのある人は使用を避ける 入浴の1時間～30分前までにははかす かぶれやすい人 入浴の1時間～30分前までにははかす
			インドメタシン				
			ケトプロフェン				
			ピロキシカム				
			フェルピナク				
			カンフル				
			メントール				
			ニコチン酸ベンジル				
			サリチル酸メチル				
			サリチル酸グリコール				
トウガラシエキス							
ハッカ油							
ユーカリ油							
みずむし・たむし用薬	・目や目の周囲、粘膜（例えば、口腔、鼻腔、膣等）、陰のう、外陰部等、湿疹、湿潤、ただれ、亀裂や外傷のひどい患部 ・患部が顔面又は広範囲の人、患部が化膿している人 【チェックすること】 ・使用部位は目や目の周囲、顔面、粘膜、陰のう、外陰部、湿疹、湿潤、ただれ、亀裂や外傷のひどい部分ではありませんか？		エキサラミド				
			クロトリマゾール				
			シクロピロクスオラミン				
			硝酸エコナゾール				
			硝酸オキシコナゾール				
			硝酸ミコナゾール				
			チオコナゾール				
			トルナフタート				
			ビホナゾール				
			ピロールニトリン				
			塩酸ジブカイン				
			塩酸リドカイン				
			塩酸クロルヘキシジン				
			フェノール				

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
みずむし・ たむし用薬	<ul style="list-style-type: none"> ・小児がお使いになりますか？ ・化膿していませんか？ ・真菌感染症による発疹であることが確かですか？ ・2週間以上使っていませんか？ 		サリチル酸 塩酸ジフェンヒドラミン グリチルレチン酸 マレイン酸クロルフェニラミン クロタミトン 酸化亜鉛 塩化ベンザルコニウム				
皮膚軟化薬（吸出しを含む）	【チェックすること】 ・使用部位は目や目の周囲、顔面、粘膜、陰のう、外陰部、湿疹、湿潤、ただれ、亀裂や外傷のひどい部分ではありませんか？ ・2週間以上使っていませんか？		リドカイン サリチル酸 尿素 塩酸ジフェンヒドラミン グリチルリチン酸ナトリウム グリチルリチン酸モノアンモニウム グリチルレチン酸 酢酸トコフェロール(ビタミンE) クロタミトン	目の周囲、粘膜等、ひっかき傷等の傷口、亀裂、炎症部位、かさぶたのように皮ふがはがれている患部 水イボ、老人性イボ(黒褐色の扁平なイボ)、尖圭コンジローム、一列に並んだイボ、群生したイボ、身体に多発したイボ 目の周囲、粘膜等、ひっかき傷等の傷口、亀裂、炎症部位、かさぶたのように皮ふがはがれている患部 目の周囲、粘膜等、ひっかき傷等の傷口、亀裂、炎症部位、かさぶたのように皮ふがはがれている患部 目の周囲、粘膜等、ひっかき傷等の傷口、亀裂、炎症部位、かさぶたのように皮ふがはがれている患部 目の周囲、粘膜等、ひっかき傷等の傷口、亀裂、炎症部位、かさぶたのように皮ふがはがれている患部 目の周囲、粘膜等、ひっかき傷等の傷口、亀裂、炎症部位、かさぶたのように皮ふがはがれている患部 目の周囲、粘膜等、ひっかき傷等の傷口、亀裂、炎症部位、かさぶたのように皮ふがはがれている患部			
(発毛、養毛、ふけ、かゆみ止め用薬等)	<ul style="list-style-type: none"> ・きず、湿疹あるいは炎症（発赤）等のある頭皮、頭皮以外の部位への使用 【チェックすること】 ・未成年者ではありませんか？ ・壮年性脱毛症以外の脱毛症（例えば、円形脱毛症、甲状腺疾患による脱毛等）、あるいは原因のわからない脱毛症ではありませんか？ ・脱毛が急激であったり、髪が斑状に抜けてはいませんか？ ・使用部位に傷、湿疹あるいは炎症（発赤）等はありませんか？ ・血圧に異常はありませんか？ ・心臓又は腎臓に障害はありませんか？ ・むくみはありませんか？ ・家族、兄弟姉妹に壮年性脱毛症の人がいますか？ ・65歳以上がお使いになりますか？ ・甲状腺疾患をお持ちですか？ ・1年以上使用していますか？		ミノキシジル	未成年者、壮年性脱毛症以外の脱毛症、脱毛が急激であったり髪が斑状に抜けている人 頭皮にのみ使用し、内服しない、他の育毛剤及び外用剤の頭皮への使用 高血圧、低血圧の人、心臓又は腎臓に障害のある人、むくみのある人、家族、兄弟姉妹に壮年性脱毛症の人がいない人 高齢者(65歳以上)、甲状腺機能障害の診断を受けている人			
点眼薬 一般	【チェックすること】 ・目に痛みはありませんか？ ・緑内障ではありませんか？		アシタザノラスト水和物	はげしい目の痛みがある人、緑内障の人			
点眼薬 抗菌性	【チェックすること】 ・長期間使っていませんか？ ・目に痛みはありませんか？ ・緑内障ではありませんか？ ・3～4日間以上使っていませんか？		塩酸エフトリン	長期連用しない			閉塞性隅角緑内障の人は禁忌。緑内障の人は注意
涙液工	【チェックすること】 ・目に痛みはありませんか？ ・緑内障ではありませんか？ ・2週間以上使っていませんか？		塩酸ナファソリン	はげしい目の痛みがある人、緑内障の人			閉塞性隅角緑内障の人は禁忌。緑内障の人は注意
装用コンタクトレンズ	【チェックすること】 ・目に痛みはありませんか？		硝酸ナファソリン	はげしい目の痛みがある人、緑内障の人			閉塞性隅角緑内障の人は禁忌。緑内障の人は注意
洗眼薬	【チェックすること】 ・目に痛みはありませんか？ ・眼球乾燥症候群（ドライアイ）の診断を受けていますか？		クロモグリク酸ナトリウム				緑内障の人は使用を避ける
眼科用薬 その他の			スルファメトキサゾールナトリウム イブシロン-アミノカブロン酸 塩酸ジフェンヒドラミン d-マレイン酸クロルフェニラミン 塩化トピチウム				長期連用しない 激しい目の痛みがある場合は相談すること 乗り物または機械類の運転操作をさける 乗り物または機械類の運転操作をさける 喘息によるアレルギーのある患者は禁忌
鼻炎用内服薬			ペミロラストカリウム フェキソフェナジン塩酸塩 エピナスチン塩酸塩	15才未満の小児、他のアレルギー用薬との併用、服用時は飲酒しない 抗ヒスタミン薬を含有する内服薬との併用、気管支ぜんそく 15才未満の小児、他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等、 制酸剤(水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウム含有製剤)、 エリスロマイシンとの併用、服用前後は飲酒しない 気管支ぜんそく、アトピー性皮膚炎等の他のアレルギー疾患の診断を受けたことがある人、鼻づまりの症状が強い人 肝臓病の診断を受けた人、他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用 乗物又は機械類の運転操作をしない		制酸剤(水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウム含有製剤)、エリスロマイシン	

分類	気をつけること	症 状	成 分	してはいけないこと／服用してはいけない人	相 互 作 用		備 考
					併用禁忌	併用注意	
			塩酸ジフェニルピラリン	肝臓病の診断を受けた人、他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用 乗物又は機械類の運転操作をしない		中枢神経抑制剤、アルコール、MAO阻害剤	
鼻炎用内服薬	【チェックすること】 ・前立腺疾患はありませんか？ ・運転または機械類の操作はしますか？ ・5～6日間以上使っていませんか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・むくみはありませんか？ ・排尿困難はありませんか？ ・心臓病、高血圧、腎臓病、緑内障の診断を受けたことはありませんか？		マレイン酸カルビノキサミン	他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用 乗物又は機械類の運転操作をしない		向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	
			d-マレイン酸クロルフェニラミン	他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用 乗物又は機械類の運転操作をしない		向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	
			メキタジン	緑内障、排尿困難の人、15歳未満の小児。 他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用 乗物又は機械類の運転操作をしない、飲酒しない		中枢神経抑制薬、抗コリン作用を有する薬剤、メトキサレン	
			塩酸プソイドエフェドリン	心臓病、高血圧、糖尿病、甲状腺機能障害、前立腺肥大による排尿困難のある人	カテコールアミン製剤 (臨・措)不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがあるので併用を避けること。(機・因)相加的に作用(交感神経刺激作用)を増強させる。	MAO阻害剤	高血圧、心臓病、甲状腺機能障害、高齢者、糖尿病、7歳未満の小児は使用を避ける
			塩酸フェニレフリン	高血圧症、動脈硬化症、心臓病、糖尿病、甲状腺機能亢進症、緑内障の人			高血圧、心臓病、甲状腺機能障害の人は使用を避ける
			ペラドンナ総アルカロイド	心臓病、高血圧、前立腺肥大による排尿困難のある人			抗アセチルコリン作用に基づく副作用(口渇、発汗抑制、眼圧亢進、排尿障害)
			ヨウ化インプロバミド	排尿困難、緑内障の人			抗アセチルコリン作用に基づく副作用(口渇、発汗抑制、眼圧亢進、排尿障害)
			セラベプターゼ	出血傾向のある血液の病気、重い肝臓病や腎臓病のある人、ワーファリンとの併用			
			塩化リゾチーム	鶏卵によるアレルギー症状を起こしたことがある人			鶏卵アレルギーの人は禁忌、3歳未満の乳児は注意
			グリチルリチン酸二カリウム				
鼻炎用点鼻薬	【チェックすること】 ・運転または機械類の操作はしますか？ ・長期間使っていませんか？ ・高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害、緑内障の診断を受けたことはありませんか？ ・アレルギーによる症状であることが確かですか？		オキシメタソリン塩酸塩	前立腺肥大による排尿困難、高血圧、心臓病、甲状腺機能障害、糖尿病／他の抗ヒスタミン剤を含有する内服薬との併用／乗物または機械類の運転操作をしない	MAO阻害剤 (臨・措)MAO阻害剤(phenelzine)との併用により、痙攣、反射亢進、異常高熱、昏睡等の症状が現れたとの報告がある。(機・因)機序は不明		
			塩酸テトラヒドロソリン	高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害、緑内障の診断を受けた人			
			塩酸ナファゾリン	過量服用・長期連用しない			
			ケトチフェンフマル酸塩	7才未満の小児 乗物又は機械類の運転操作をしない		中枢神経抑制薬、抗ヒスタミン薬、アルコール	
			塩酸フェニレフリン	高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害、緑内障の診断を受けた人			
			塩酸イプロヘプチン				
			マレイン酸クロルフェニラミン	高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害、緑内障の診断を受けた人		向精神薬・鎮静薬・催眠薬等、抗コリン作用を有する薬剤、MAO阻害薬、ドロキシドパ	
			クロモグリク酸ナトリウム	乗物又は機械類の運転操作をしない 高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害、緑内障の診断を受けた人			
点耳薬			フェノール	長期連用しない、点耳用にのみ使用し、眼や鼻に使用しない 鼓膜が破れている人、患部が化膿していたり、痛む人			
			塩酸プロカイン	長期連用しない、点耳用にのみ使用し、眼や鼻に使用しない 鼓膜が破れている人、患部が化膿していたり、痛む人			
			アミノ安息香酸エチル	長期連用しない、点耳用にのみ使用し、眼や鼻に使用しない 鼓膜が破れている人、患部が化膿していたり、痛む人			
			アクリノール	長期連用しない、点耳用にのみ使用し、眼や鼻に使用しない 鼓膜が破れている人、患部が化膿していたり、痛む人			
口腔咽喉薬・口内炎用薬			ヨウ化カリウム	甲状腺の疾患のある人、口内のひどいただれがある人			母乳中に移行するため授乳中は注意
			アズレンスルホン酸ナトリウム	口内にひどいただれのある人			
			ポピドンヨード	口内のひどいただれ、甲状腺機能障害の診断を受けた人			ヨード過敏症
			ヨウ素	甲状腺疾患のある人			ヨード過敏症
			塩化リゾチーム	鶏卵によるアレルギー症状を起こしたことがある人			むくみ、血圧上昇などの偽アルドステロン症
		グリチルリチン酸二カリウム					
歯槽膿漏薬	【局所歯痛薬】 ・5～6回以上使用していませんか？ 【内服歯槽膿漏薬】 ・1ヶ月以上使っていませんか？		クレオソート	長期連用しない			
			フイトナジオン	血栓塞栓症で血液の凝固を抑制するワルファリンを服用中の人			
			塩化リゾチーム	鶏卵によるアレルギー症状を起こしたことがある人			
歯科口腔用薬	【医師の診断は受けましたか？ ・使用部位は広範囲ではありませんか？ ・6歳未満の小児がお使いになりますか？ ・熱はありませんか？ ・広範囲の発疹等の全身症状はありますか？ ・使用部位は口唇や口唇周辺以外の部分ではありませんか？ ・長期間使っていませんか？ ・湿潤やただれは重症ですか？ ・アトピー性皮膚炎ではありませんか？	ヘルペス治療	ピダラピン	医師による口唇ヘルペスの診断・治療を受けたことのない人、患部が広範囲の人、6歳未満の乳幼児 発熱、広範囲の発疹等の全身症状がみられる人 口唇や口唇周辺以外の部位には使用しない、長期連用しない、湿潤やただれがひどい人、アトピー性皮膚炎の人		ベントスタチン	
禁煙補助剤	・血管障害ではありませんか？ ・うつ病と診断されたことはありますか？ ・65歳以上の方がお使いになりますか？ ・小児がお使いになりますか？ ・熱はありませんか？ ・胃の疾患はありませんか？ ・甲状腺疾患はありませんか？ ・褐色細胞腫と診断されてはいませんか？ ・皮膚疾患はありませんか？ ・てんかんはありませんか？		ニコチン	非喫煙者、すでに他のニコチン製剤を使用している人、重い心臓病を有する人 急性期脳血管障害(脳梗塞、脳出血等)と医師に診断された人、うつ病と診断されたことのある人 高齢者及び20才未満の人、腹痛、胸痛、口内炎、のどの痛みなどののはれの症状のある人 心臓疾患、脳血管障害、末梢血管障害、高血圧、甲状腺機能障害、褐色細胞腫、糖尿病、咽喉炎、食道炎、胃・十二指腸潰瘍、肝臓病、腎臓病と診断された人		アドレナリン遮断薬、アドレナリン作動薬、イミプラミン、カフェイン、テオフィリン、フェナセチン、フロセミド、プロプラノロール、ベンタゾジン	過剰摂取により吐き気や動悸が起こることがある。母乳中に移行し、乳児への影響が考えられるので、授乳中は禁忌。
駆除剤	【チェックすること】 ・湿疹、かぶれ、ただれはありませんか？		フェントリン				飲んだり、吸い込んだりしないように注意すること。3～4回使用しても改善しない場合は使用中止すること。

参考資料

- (1) 医薬品医療機器総合機構の一般用医薬品のwebsite
http://www.info.pmda.go.jp/osearch/html/menu_tenpu_base.html
(2) OTC医薬品対応マニュアル 徳山尚吾編 薬事日報社